

読書の開環、知の創環

理工学部 教授 浜口 稔

☒ 書と図書館の話をししましょう。まずは図書館とはなんでしょうか。図書の館と書きますからね、図書＝本がいっぱい保管してある場所であるには違いない。ちなみに「本」のことをラテン語で *liber* といって、もともとは「樹皮の内側」の意味でありました。それが今で言う本になるまでには長い長い物語がありますが、そんな *liber* を納めるコンテナをラテン語で *librarium* (本の容器/書棚)といい、これが英語の *library* となったのです。「オーバーか?」と突っ込まれそうですね。オーケー。では、漢字の「本」はどうか。木の下に一をのせて「根」や「元」を意味するとあるし、「書籍」の籍は「竹」と関係しますからね、樹木がかかわる点では、まあ、似たり寄ったり。

さて、図書の「書」はさておき、「図」は狭い紙面に物の形や地形をしるしたもの(早い話、図面や地図)なんだそうです。ほう、すると、図書館には書物のほかに「図版」などの「視覚情報」が納められているということか。その関連で、視覚情報としての事物を(博)く集めて閲覧させる館をなんと言うのでしょうか。日本語はなかなか分かりやすい。博物館と言いますね。英語では *museum* と言いますが、これは古代ギリシア語のローマ字表記で *mouseion*、もともとは芸術・学問をつかさどる女神(*Mousa*)の神殿のことで、瞑想の社とも解され、「書齋や図書室」を意味するようにもなりました。あれれ、だったら、図書館と博物館は同じものなのか。そう、思想的には同じです。話せば長いことながら、この二つの館＝メディアは、どうやら西洋思想史の難問「言葉と事物」が物象化したもののようなのです。

もうひとつ、事物(あるいは概念)世界の情報を満載したメディアを百科全書と言いますが、英語では *encyclopedia*、古代ギリシア語の *enkyklios paideia* 「満遍なき教育」に由来します。あらゆる知識(コンテンツ)を満遍なく納めたメディア(コンテナ)である図書館と同じ。ここまで来れば「満遍なき教育」から円満なる教養人を育成するためのリベラルアーツ教育—ラテン語では、奴隷ではない自由民のための自由学芸(*artes liberalis*)でありました—までの連想は容易でしょう。どうです、このあたりで、大学という高等機関のなかの学びの連関図が見えてきたのではありませんか。でも、話はこれで終わりません。もう少し踏み込んで考えてみましょう。言葉が事物/概念を操作するというお話。

情報(言葉)で機械(事物)を動かすことをサイバネティックスといいます。分子の「言葉」で遺伝「物質」を操作するバイオテクノロジーがあり、原子の「言葉」で「物質」の組成そのものを書き換え、自然界には存在しない事物を創造してしまうナノテクノロジーがある。ヴァーチャルな「事物」をコンピュータ「言語」で操作し加工してしまうインフォメーション・テクノロジーがある。これらが図書館とどんな関係にあるかって? 大ありでしょう。既存の情報を組み合わせて新しい情報へと加工する創造活動のための材料(書籍)の在り処を的確かつ瞬時に探しあて、関連する主題系列まで手繰り出す技法と工夫を連綿と追求し続け

てきたのは、ほかならぬ図書館であったのですから。書「物」に記号と数字からなるタグ(言葉)を付けることで書籍情報の分類と配架を工夫し、膨大な情報を活用する仕組みを構築し続けている図書館は、暗号術+記憶術、作図法、代数幾何学、そしてゲーテンベルクの印刷術の申し子であり、情報の管理と検索と編集と創造の流れをヴァーチャル化できる検索エンジンのファミリーの元祖にほかなりません。どうです、このワクワクするような知の連関を大学のなかでぐるぐる巡らせてオシマイにしてはモッタイないでしょう。円環する知はさらなるサイクルを描くのです。

さて、お勧め本の紹介をするつもりで書きはじめたこの文を、どう納めましょうか。グローバル化時代の地球文明史を眺め渡すような思考を磨くためにお薦めしたいのが、ジャレッド・ダイヤモンド『銃・病原菌・鉄』、それをさらに大規模に想像力の翼をはためかせて地球の終わりまでの人類の変貌と興亡の幻想史を鳥瞰したオラフ・ステープルドン『最後にして最初の人類』、メディアの本質を緻密に解剖し、西洋史を貫く枢軸概念へと拡張してみせたマーシャル・マクルーハン『ゲーテンベルクの銀河系』は、それぞれ歴史的名著であり、わたしのバイブルでもあります。金子務『ガリレオたちの仕事場』、デイヴィッド・バーリンスキー『史上最大の発明、アルゴリズム』、アミール・D・アクセル『デカルトの暗号手稿』、アルフレッド・W・クロスビー『数量化革命』、佐々木能章『ライブニッツ術—モナドは世界を編集する』は、今回のお話のタネ本の一部。読みやすいのでお勧めです。

ほかにも、紹介したい本はいくらでもありますが、書物の概念も大きく変わってきましたし、インターネットも大いに活用しましょう。書物の目効き、書評の腕効きが、選りすぐりの新刊本・話題本の紹介を以下のサイトで大盤振る舞いしています。まずは明大図書館のサイトからもアクセスできる、

「松岡正剛の千夜千冊」

<<http://www.isis.ne.jp/mnn/senya/senya0001.html>>
続編の「千夜千冊遊蕩篇」

<<http://www.isis.ne.jp/mnn/senya/senya.html>>
続いて、紀伊國屋書店の「書評空間」

<<http://booklog.kinokuniya.co.jp>>
「角川学芸WEBマガジン」

<<http://www.kadokawagakugei.com/magazine>>
NTT出版の「Webマガジン」

<<http://www.nttpub.co.jp/webnttpub/index.php>>

と、ほかにもいろいろありますが、IT時代の皆さんは、こんなものも活用して「円環知」の伝統の継承者になってほしいものです。

いまや図書情報は、リアルもヴァーチャルもひと続き。とても使いやすくなりました。利用しないと、ああ、モッタイない!

HAMAGUCHI
Minoru



図書館でよく 読まれた本

2007

Most read books at the library



ランキングは貸出数をもとにしています。通学・通勤の途中やちょっとした合間に手にすることの出来る文庫本はやはり人気です。図書館では、研究・学習をサポートするため多くの学術専門書を揃えています。でもそれだけではありません！皆さんが読書に親しみ楽しむことができるよう、3館全てに新書・文庫コーナーを設置しています。どんどん利用し、充実した図書館ライフをおくってください。 [2007.4.1~2008.1.31集計]

中央図書館

貸出数	順位	タイトル / 著者	出版事項
20	1	鳥人計画 / 東野圭吾著	角川文庫 2003.8
17	2	人間天格 / 太宰治著	新潮文庫 1985.1
17	▽	ぬるい眠り / 江国香織著	新潮文庫 2007.3
16	3	上田秋成集 / 上田秋成著, 中村幸彦校注 (日本古典文学大系: 56)	岩波書店 1959.7
16	▽	魔術はささやく / 宮部みゆき著	新潮文庫 1993.1
16	▽	またたび / さくらももこ著	新潮文庫 2005.11
16	▽	ロリィタ。 / 巖本野ばら著	新潮文庫 2007.3
15	4	不安な童話 / 恩田陸著	新潮文庫 2002.12
15	▽	時をかける少女 / 筒井康隆著	角川文庫 2006.5
15	▽	人生劇場 / 三浦しをん著	新潮文庫 2006.8
14	5	夢にも思わない / 宮部みゆき著	角川文庫 2002.11
14	▽	希望格差社会: 「負け組」の絶望感が日本を引き裂く / 山田昌弘著	筑摩書房 2004.11
14	▽	人は見た目が9割 / 竹内一郎著	新潮文庫 2005.10
14	▽	殺人の門 / 東野圭吾著	角川文庫 2006.6
14	▽	不都合な真実: 切迫する地球温暖化、そして私たちにできること / アル・ゴア著, 枝廣淳子訳	ランダムハウス講談社 2007.1
14	▽	エイジ / 重松清著	新潮文庫 2004.7
13	6	債権名論 / 内田貴著 (民法: 2)	東京大学出版会 1997.7
13	▽	Intermediate microeconomics: a modern approach / Hal R. Varian	W.W. Norton c1999
13	▽	西の魔女が死んだ / 梨木香歩著	新潮文庫 2001.8
13	▽	日曜日の夕刊 / 重松清著	新潮文庫 2002.7
13	▽	そして誰もいなくなった / アガサ・クリスティ著, 清水俊二訳	ハヤカワ文庫 2003.10
13	▽	オーデュボンへの祈り / 伊坂幸太郎著	新潮文庫 2003.12
13	▽	ライオンハート / 恩田陸著	新潮文庫 2004.2
13	▽	コールドゲーム / 荻原浩著	新潮文庫 2005.11
13	▽	探偵倶楽部 / 東野圭吾著	角川文庫 2005.10
13	▽	世界の日本人ジョーク集 / 早坂隆著	中公新書ラクレ 2006.1
13	▽	言いたいことが言えない人: 「恥ずかしがり屋」の深層心理 / 加藤壽三著	PHP新書 2006.1
13	▽	容疑者Xの献身 / 東野圭吾著	文藝春秋 2005.8
13	▽	頭がいい人、悪い人の「口ぐせ」 / 樋口裕一著	PHP新書 2006.3
13	▽	星の王子さま / サン＝テグジュペリ著, 河野万里子訳	新潮文庫 2006.4
13	▽	「場の空気」が読める人、読めない人: 「気まずさ解消」のコミュニケーション術 / 福田健著	PHP新書 2006.6
13	▽	号泣する準備はできていた / 江国香織著	新潮文庫 2006.7
13	▽	重力ピエロ / 伊坂幸太郎著	新潮文庫 2006.7
13	▽	小さき者へ / 重松清著	新潮文庫 2006.7
13	▽	腐女子化する世界: 東池袋のオタク女子たち / 杉浦由美子著	中公新書ラクレ 2006.10

図書館でよく読まれた本 2007